

先輩寄稿

親愛なる後輩たちへ

よき出会いとよりよき人生のために

綱島(旧姓内輪)久美子(昭和五十五年卒)

徳島県警察嘱託警察犬指導員(元警視庁警察官)

新型コロナウイルス感染症が蔓延して以来早三年が経ちますが、これまで様々な制約を受け、又、多くの犠牲を強いられながらも、皆さんは、それぞれに充実した学校生活を過ごされてきたことと思います。

この厳しい時代を城南高校で過ごした日々は、いつか必ず皆さんを支える力となり、逞しく寄り添ってくれることでしょう。さて、私は昭和五十五年(一九八〇年)城南高校を卒業し、京都で四年間の学生時代を過ごし、その後、上京して警視庁警察官になりました。

顧みますと、私の人生は最初から目的があったわけではなく、まるで何かに導かれるような偶然の出会いが折り重なることで、進むべき道を見出し、自分なりの精一杯で歩んできたと思えます。

その出会いは、誰かの言葉や、風景や、読んだ本や、聴いた音楽等の中にあり、そのどれもが、時に心を支え、励まし、鍛

え、変化させ、そして背中を押して、いつも近くで応援してくれました。

多くの素敵な出会いに感謝し、これまでの人生におけるエピソードを、お伝えしたいと思います。

《大学進学に至る出会い》

高校二年の夏、朝霧が立ち込める京都御所と、赤レンガの大学の美しい風景に出会い、心を打たれて大学進学を決めたのですが、それまで目的もなく過ごしてきたことから、受験勉強の時間が足りないことを痛感していました。

そんな時、受験に関する講演を聞く機会に恵まれ、力強い言葉に出会うことで、諦めずに進むことができたのです。

「大丈夫です。今日気づいた人は、明日気づくより早いです。いつからでも遅くはありません。気づいた時から全力で挑

めばいいのです。」この言葉は、六十歳を過ぎた今でも、いつも背中を押して、私を応援してくれています。

《就職に至る出会い》

私が大学生の頃の就職事情は、現在とはかなり違い、まだ女性の社会進出は積極的でない時代でした。女子が総合職で採用されることはほとんどなく、就職率は短期大学の方が高いことから、専門職を希望する人以外は、真剣に就職について考えていなかったと思います。例え、就職しても結婚後は退職するという、いわゆる寿退社が一般的でした。

このようなことから、私も卒業後は、徳島に戻り、父の紹介で就職すればいいと考えていたのです。

そんな四年生の春、教員志望の友人と入った本屋で、友人が手に取った教員採用試験の隣にあった婦人警察官採用試験という本に出会いました。

何気なくページを開くと、婦人警察官（現在は女性警察官）にふさわしい人という項目があり、そこには明るい人、正義感の強い人、忍耐力のある人等が記されていました。それを友人に見せたところ、「びつたりだね。」という言葉が返ってきたことで、迷わず警察官を目指すことになったのです。

当時、女性警察官の採用制度は、徳島県警にはなかったため、警視庁を受験することにしました。採用試験まで半年の猶予しかない焦りはありましたが、あの講演での言葉が背中を押してくれた結果、合格できたと思っています。

もしあの時、京都御所の前を通らなければ、あの励ましの講演がなければ、友人が取った本の隣が別の本だったらと考えると、これら出会いのいずれか一つでも欠けていれば、今の私の人生は全く違うものになっていたことでしょう。

つまり、私がどこに進むべきかを教えてくれた偶然の出会い、私の人生を決定づける大切な道標だったということです。これから、皆さんにも多くの出会いがあるかと思いますが、一つひとつの出会いを見遇ごすことなく、大切に感じながら日々を過ごしていただきたいと思っています。

《警視庁警察官での出会い》

昭和五十九年（一九八四年）九月警視庁警察学校に入校し、六か月間の厳しい訓練が始まりました。寮生活は六人部屋で、高卒から大卒までが寝食を共にする集団生活でした。

毎朝、早朝六時の点呼から始まり、寮内外の掃除は床もドアノブもピカピカに輝かせなければなりません。加えて、合気道や剣道の朝練、そして法学や警察官に必要な授業があり、消灯は二十二時で、土日の外出も誰かが何かミスをする、連帯責任で外出はできなくなりました。

こんなことが何の役に立つのかと思いましたが、警察官は、常に都民の信頼を得なければならないことから、身だしなみや周りの環境を整える事、時間厳守、そして一人の警察官の不祥事が警察全体の責任となること等、警察学校で理不尽だと思っただ事は、全て警察官として必要であることを

後に知ることとなりました。

このような中で、警察学校で出会い、苦楽を共にした同期生とは、今でも気の置けない大切な仲間です。

話が逸れますが、もうひとつ気の置けない仲間と言えば、高校時代の野球部の同級生です。平成二十三年

(二〇一一年)春の選抜大会に、後輩たちが甲子園出場を果たしてくれたおかげで、元マネージャーだった私は、三

十五年ぶりに野球部の仲間に再会する(出会う)ことができました。その後私が徳島に戻り、尚一層の交流を深めて、今では高校時代以上に信頼し合える大切な仲間となっています。甲子園に連れて行ってくれた後輩たちに感謝です。

皆さんも、生涯の友と言える仲間をどうか大切にしてください。

さて、私は警察学校を卒業後、本郷にある本富士警察署に配属となりました。当時女性は、少年補導や事件捜査の手伝いをすることはあったものの、一般的に交通課勤務でした。私も駐車違反の取締りや交通安全教育等、交通に関わる業務を担当しました。

そんな中で、印象深い思い出は、日本で行われた二回目の東



警視庁警察学校～警察犬と

京サミットとその終了翌日に来日したダイアナ元妃の大警備です。

当時は、過激派と呼ばれた活動も活発で、サミット会場である迎賓館に向けてロケット弾が五発発射され、その付近に着弾した事件がありました。迎賓館で警備にあたっていた私の頭上を飛んで行ったと考えると、警察官の仕事は、命の危険と隣り合わせだと改めて感じたものです。

また、ダイアナ元妃来日の警備は、機動隊指揮官車の屋根上にある指揮台で、パレード見学の人たちへの広報をしました。今でいう「DJポリス」の走りです。

私の一言ひと言に人々の反応があり、とても緊張したことを覚えています。パレードでは、車列がすぐ後ろを通過しましたが、警察官は背面配備(要人に背中をむけての配置)のため、残念ながら、ダイアナ元妃は見えず、国旗を振る民衆と歓声しか思い出はありません。

また今では笑い話ですが、ある会議で女性警察官にもけん銃を携帯させてほしいと提案したところ、即行で却下されました。現在は、女性警察官も交番勤務からのスタートとなり、当然けん銃も携帯しています。時代の変化は、不思議でおもしろいと感じます。

このように、充実した日々を過ごしていた私も、結婚、出産、そして育児のため、警察官を三年半で退職することとなりました。

私が警視庁の警察官となった当時は、男女雇用機会均等法の成立前で、産休はあったものの育児休業や育児時間、保育に対

する環境も整備されていませんでした。そのため、子育てをしながら働くことは、まだまだ難しい時代で、多くの女性警察官は志半ばで退職せざるを得ませんでした。

ただ、このような短い期間であつても、警察官として学んだことは数多くあり、それらは後の社会でも活かせることができたと感じています。

要は、期間の長短だけではなく、その時々と与えられたことに対して、どれだけ真剣に向き合い、精一杯の努力をしたかです。そして、仮にその時には成果がなくても、人生のどこかで必ず力となり、よい結果へと繋がるものだと思います。

《再就職に至る出会い》

警視庁を退職して数年たったある日、人事課の同期生から、同じ境遇で退職した女性警察官を、一般職員として再雇用する新たな制度ができたので、働かないかとの誘いがあり、再び警視庁で働くこととなりました。

再雇用職員としては、赤坂警察署と警視庁本部の総務部文書課で勤務することとなりました。ここで、その後の人生の『師』というべき上司に出会い、生涯心に刻める多くのことを学ばせていただきました。

よりよき人生を歩むためには、心を磨き、自分を高める努力が必要ですが、その一方で、よい方向へと導いてくれる「師」と呼べるべき人との出会いも重要です。

ただ、本当に信頼できる関係は、自分にとって耳の痛い話を



警視庁赤坂警察署～後輩たちと



警視庁総務部文書課

してくれる人だと思っています。そういう人の本質を感じ取れるように、謙虚で素直な心を持つことも必要だと思います。

さて、赤坂警察署では主に受付業務を担当となり、また文書課では、庶務担当となり、課内外の調整と公印（警視庁が公に使用する印鑑）の管理を任せられました。

その中で、現状と合わなくなった公印規程を改正する重要業務にも携わることができ、大きな自信となりました。

余談になりますが、この規定改正で、大部分の公印を縦書きから横書きに変更しました。もし皆さんが今後、東京に居住し、警視庁で運転免許証の交付を受けることがあれば、私が携わっ

た東京都公安委員会の小さな横書きの印鑑が印刷されているので、確認してみてください。

近年、マイナンバーカードとの一体化も議論されましたが、国家公安委員長が一体化は検討していないと発言され、私の歴史が残ったと、心密かにガッツポーズで喜びました。

《愛犬と囃託警察犬に至る出会い》

平成二十五年（二〇一三年）三月に主人（東京出身）の定年退職を期に徳島に戻り、いつかシェパードを飼いたいという夢を、バーバラを迎えることで実現させました。

そして、家庭犬としての躰を学べるトレーナーに出会い、犬の習性や飼い主としての心構えを教えていただく中で、飼い主と犬が同じ目的に向かって一緒に努力することは、信頼関係を深めることに繋がることから、囃託警察犬にはどうかと提案をいただきました。

その時、警察学校当時、女性警察官が警察犬の訓練をする姿を見て、いつか警察犬担当になりたいという夢を抱いたことを思い出し、囃託警察犬と指導員を目指すことを決心したのです。

県警の囃託警察犬になるためには、年二回行われる競技会に毎年合格しなければなりません。ここからバーバラと週四日の訓練を始めることになりました。

訓練の最大の問題は、言葉ではコミュニケーションが取れない犬に、私がしてほしいことをどう伝えるかです。失敗を重ねながら犬の習性やバーバラの性格を考慮し、知恵をしばり工夫

しながら進めました。

途中、挫折しそうな時もありましたが、私が諦めなければ、バーバラは絶対についてきてくれることを感じました。そして、ひとつ成功するたびに喜びを分かち合い、信頼関係を深めてきたように思います。

このような訓練を四年続けて、ようやく昨年、令和四年（二〇二二年）一月に、バーバラと念願の徳島県警察囃託警察犬（ヴァラー号）と指導員となり、様々な捜索活動で活躍できることとなりました。

私は、突然行方不明となった大切な家族を思う、残された家族の苦しい気持ちだが、人一倍理解できます。

なぜなら、二歳の娘を池袋駅の雑踏で見失った経験があるからです。それは一分ほどの出来事でしたが、表現できないほどのパニック状態になったことを今でもはっきりと覚えています。

この苦い経験と、文書課時代に仕事に対する心構えとして「師」から学んだ「慌てない 侮らない 諦めない」という言葉を胸に刻みながら、必ず生存して家族の元に帰すという強い



徳島県警囃託警察犬合格



六甲山登山



中央赤○が発見現場

信念で、捜索にあたることを心がけています。

この学んだ言葉は、何かあった時に、バタバタと「慌てて」しまつて、方向性を見失わないようにしつづつ、泰然自若にやっている、上手くいかないこともあるので、事の重大性をしっかりと「侮らない」で考え、そして最後まで「諦めない」で、やり通すということです。

こうして昨年七月の五回目の出勤で、経験の浅い私たちが、行方不明となった九十代の女性を生存発見することができたのです。

発見当日は猛暑の中、家族からの情報に逆らい山道を登ったのは、バーバラが道路脇の用水路を盛んに気にする様子を感じ取ったからです。

以前、犬は水からの匂いも取るということを指導員の先輩から聞いていたことと、私が警察官時代に、埼玉から歩いてきた高齢者を保護した経験を思い出し、高齢者が疲れを忘れて思わぬ行動を取る可能性があることが繋がったことで、バーバラを心から信じて山道を登れたと思えます。

ただ、雑草や木々が生い茂り、何も見えず、人が立ち入ることすら困難な崖下で発見できたことは、奇跡とも感じます。

もちろんバーバラが、崖下を気にしたことは

確かですが、その場所を私も目を凝らして草木の隙間の一つひとつを確認したことが不思議でならないのです。しかし、その結果、行方不明者を発見することができたのです。

なぜこのような発見ができたのかを考えた時、実は昨年春に尊敬する「師」が、天国に旅立ったことを思いました。嘱託警察犬と指導員に合格したことをお伝えすることもできず、心残りのまま日々を過ごしていた矢先の人命救助だったので。

この時の状況を何度思い返しても、いつも笑顔で私を応接してくれた亡き「師」が、「綱島がんばれ。バーバラこっちこっち。」と天国から導いてくれたのではないかと思えてならないのです。

目に見えないものは、見えるもの以上に、心を支えてくれるものではないでしょうか。

以前、あるお寺の説法で、仏教には、おかげさまという意味の『冥加（みょうが）』という言葉があると聞きました。『冥』は、目に見えない神仏の作用で、『加』は、目に見えない支えが加わることだそうです。

今回の人命救助も、多く



徳島県警より感謝状

のおかげさまにより、導かれたのではないかと感じています。みなさんも日常のある時、不思議だと思えることに、遭遇した経験があると思います。それは、理屈では説明できない、目に見えないおかげさまが働いた時だと思えます。そんな時は、何かに見守られているのだと、感謝の心を持ちたいものです。

《後輩の皆さんへ》

今、人生一〇〇年時代と言われていますが、皆さんの人生は、正にこれからが正念場です。

これまで、私が生きてきた時代よりも、複雑で難しい時代だと思えます。地球温暖化で異常気象にみまわれ、平和だと思っていた時代に、現に戦争が起きて、社会や経済に影響を受け、更には、過剰すぎる豊かさや便利さが、逆に色々なところにひずみを生じさせるなど、難題だらけの世の中です。

ただ、これから皆さん一人ひとりの力で変えていけることがたくさんあると思えます。

今の日本の政治を見ても、多くの課題があります。幕末の日本を描いた歴史小説やドラマを観ると、この時代の偉人たちは、私利私欲を満たすためではなく、「国のため、民のため」に命がけで行動を起こしてきたと思えます。戦後の日本の復興も同じです。今はどうでしょう。その熱く尊い志の上に生きていくことが、時々恥ずかしくなります。

いずれにしても、皆さんがこれからの日本を背負う時代は、もう目前まできています。

しかし、残念なことに、若い頃は、政治や社会に興味や関心がなく、二十代の投票率は、六十才以上の半分と聞きます。せっかく与えられた十八歳以上の選挙権を、是非、行使して、政治や社会に積極的に参画してもらいたいと思います。

そして、ここで大切なことは、自分たちが社会の中心になった時に、どのような世の中であって欲しいのかを、今からイメージし、それを実現するために、たくさんのお会いの中で、失敗を恐れず、多くのことを学び、経験していくことです。決して、表面的な損得に左右されず、学んだことを糧として、若い力で、自分たちの目指す理想の社会を築いていって欲しいと心から願っています。

これから皆さんが人生を歩む中で、嫌なことや辛いこともあられるでしょうし、良いこともあるでしょう。乗り越えなければならぬ壁もあるでしょう。そればかりか、多くの試験が、これらからいつばい付きまどつてくると思えますが、これまでお伝えしたことを一つでも参考に、前向きに取り組み、そして試験を乗り越えていっていただきたいと思えます。その先には、よりよき人生が待っているはずですよ。

結びに、皆さんへ心から熱いエールを送ると共に、私も卒業生の一人として、少しでも世の中のために役に立ちたいという想いを忘れず、愛犬バーバラと『人犬一体』、心をひとつにして、与えられた使命を果たしていきたいと思えます。

城南健児に幸あれ！

ハイザ城南ハイザ城南リーベホッソー！